



ハナショウブに発生する疫病に注意！

雨宮良幹

(日本花菖蒲協会顧問、元千葉大学教授)

近年、ハナショウブの葉に黄化腐敗症状を引き起こす疫病の被害が各地の栽培地で多発しています。本病害は、*Phytophthora* という卵菌類の仲間により発生し、放置すると年々被害が増加し、その場所で育たなくなる恐れがありますので、注意してください。

被害の特徴

- ★ 出芽期から開花前に発病が多く見られ、湛水～湿潤条件でまん延しやすい。
- ★ 出芽後に見られる症状は、株の生育が不良で、葉の多くが黄化している。
- ★ 生育期の症状は、株の中心の葉が最初に黄化・枯死するのが特徴で、その葉を引っ張ると基部から容易に離脱し、基部は赤～暗褐色に腐敗している。



被害株の状態



中心の葉の黄化(左)と枯死(右)



発病葉の基部腐敗



生育初期の株の生育不良と黄化症状



腐敗部表面には白色の菌糸が着生(左)。顕微鏡下で、無隔壁菌糸と卵胞子が観察される(右)。

防除対策

- ★ 発病株は根及びその周囲の土壌も含めて除去し、被害残渣も圃場に残さない。
- ★ 発病株から株分けした苗は、病原菌に汚染されているので使用しない。
- ★ 病原菌は水中を移動するので、湛水栽培を避け、多湿な圃場では側溝を設けたり高畝にしたりして、排水を良くする。
- ★ 定植前に堆肥などの有機物資材を十分に施す。
- ★ 発生圃場では、定植時にユニフォーム粒剤を植え穴に所定量散布する。ただし、本剤の多用は耐性菌の出現を招く恐れがあるので、できるだけ定植時の処理に留める。